通算８期の功績に、深い敬意を

～現新一騎打ちの太田市長選挙～

４月 13 日に投開票が行われた群馬県太田市長選挙は、現新一騎打ちとなり、元県議の穂積昌信氏（50）の当選が伝えられました。現職の清水聖義氏（83）は、通算８期の 30 年にわたる豊富な実績と新たな公約を掲げて戦いましたが、世代交代を望む声の勢いの前に、年齢という大きな壁を越えることはできませんでした。

政治家は任期を重ねることで、実績も蓄積されていきます。しかしながら、年齢という最大の強敵には、清水氏も抗うことができなかったのだと感じます。

【PPP／PFI の先駆者！】

清水氏は、太田市議１期、群馬県議３期を経て、旧太田市時代の 1995 年に市長選に初当選されました。

すでに着工していた 21 階建ての新庁舎計画を見直し、現在の 12 階建てに変更した判断は、今も多くの市民に強い印象を残しました。また、リーダーシップと実行力を兼ね備え、他自治体にはない施策を次々と打ち出す姿勢は、市民から高く評価されてきました。

中でも清水氏が推進した PPP（官民連携）や PFI（民間資金活用による公共事業）は、全国の自治体にとって先進的なモデルとなりました。財政状況が比較的良好な太田市でさえ、清水氏は PPP／PFI を積極的に導入し、市の発展を支えました。

私自身、2015 年に明和町長に就任した際、太田市の PPP を手本として、無我夢中で明和町なりの PPP を模索してきました。

2025 年 4 月 8 日に太田市飯塚町の清水選対を訪れた際、選対幹部のかたから「明和町は素晴らしい。あなたは清水市長にそっくりだ。真似をしている」と言われました。続けて「真似しようにも誰にもできなかった。それを明和町が実現している。頑張ってほしい」と激励の言葉をいただいたことは忘れられません。

【工業出荷額県内 1 位、全国 15 位】

群馬県全体の工業出荷額は 9 兆 5,624 億円です。その中で太田市は 2 兆 8,622 億円を記録して県内第 1 位で、2 位の伊勢崎市 1 兆 2,074 億円を大きく引き離しています。

全国で見ても太田市は第 15 位。ちなみに全国 1 位は愛知県豊田市で 16 兆 8,144 億円です。

その他県内の主な市町の出荷額は、前橋市 5,442 億円、高崎市 1 兆 103 億円、館林市 3,311 億円など。邑楽郡では、大泉町 6,301 億円、邑楽町 2,751

億円、千代田町 2,444 億円、板倉町 712 億円、明和町 869 億円です（2022 年統計による）。明和町は「町民一人あたりの稼ぐ力」では県内トップであるものの、出荷額自体はまだ伸びしろがある状況です。

【「なるとき」より「やめるとき」が難しい政治家】

政治家にとって、最も難しいのは辞めるときの判断かもしれません。後援会は「引っ込め」とは決して言わず、最終判断はあくまで本人に委ねられています。その中で、時に判断を誤ることもあるでしょう。

方丈記に「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし」とあるように、人も世も常に変化していて、本人が引退を望んでいても、周囲の期待や思惑が複雑に絡み合い、最終的には流れに任せるしかなかった、というお気持ちもあったのではないでしょうか。また、平家物語の「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり……」にあるように、すべては移ろい、永遠であるものはありません。

【選挙モンスターと呼ばれた達人】

清水氏は旧太田市時代を含めて、市長を通算 8 期務められました。これは全国最多であり、選挙歴も 14 回ということで、まさに「選挙モンスター」と呼ぶにふさわしい存在です。後援会をつくり、まちづくりをし、成果を上げ、盤石な体制を築いたうえで勇退することこそが、理想像と考えておられたようです。それだけに、今回の結果は無念であったと思います。

最後の挑戦の機会を得られなかったことについて、後援会や周囲の判断を罪深いと感じる部分もあります。それでも、30 年にわたって太田市の発展に尽くした功績には、誰も異を唱えることはありません。

清水さん、まだまだ人生はこれからも続いていきます。これまでのご尽力に感謝するとともに、今はどうかご自身の時間を大切にされ、しばしごゆっくりと休養されることを願っております。

令和7年4月28日

明和町長　冨塚もとすけ